

エル・プラス2003-11

計算基準日

2020年04月30日

日興アセットマネジメント株式会社

page 1

※当レポートでは基準価額、解約価額および分配金を1口当たりで表示しています。

※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※マザーファンドの投資一任先は、2002/3/1より、CDCインベストメント・マネジメント社から、ザ・ニッコー・セキュリティーズ・カンパニー・インターナショナル・インクに変更されております。同社は2005/1/11をもちまして社名を日興オルタナティブアセットマネジメント・インクに変更しました。また、同社は2007/11/30に日興AMインターナショナル・インクと合併し、日興アセットマネジメント・アメリカズ・インクとなりました。

ファンドの基本情報

基準価額	8,668円	解約価額	8,668円
設定日	2003年11月28日	純資産総額	9.53億円
償還日	2024年2月7日	決算日	毎年2月7日

(休業日の場合は翌営業日)

※基準価額は、基準報酬(年率1.95%)控除後の値です。

※解約価額は、解約請求受付日の基準価額から当該解約に係る1口当たりの成功報酬を控除した価額です。

※成功報酬は、毎計算期末または償還日の基準価額、もしくは受益者毎の解約請求受付日の基準価額が「1ヵ月円LIBOR累積ベンチマーク」を上回るとき、その上回る額に20%を乗じ、さらに該当する受益権口数を乗じて得た額です。

当レポート作成基準日現在、成功報酬は、0円(1口当たり)です。

※分配金込み解約価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※右記の「パフォーマンス分析」は、分配金込み解約価額の月次リターンをベースに計算した理論上のものである点にご留意ください。

※下記の推移グラフおよび「分配金込み解約価額のパフォーマンス」は、分配金込み解約価額を使用した理論上のものである点にご留意ください。

※ベンチマークは1ヵ月円LIBORです。

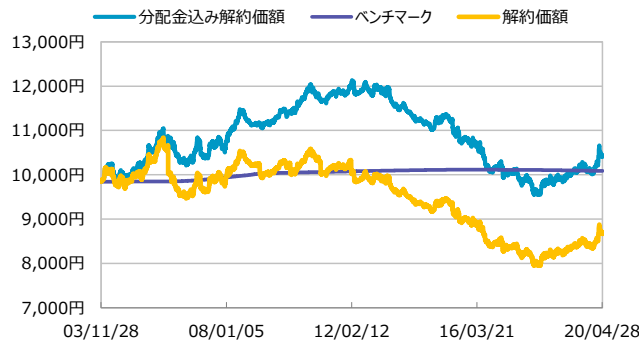
パフォーマンス分析(分配金込み解約価額ベース)

リターン	
月次リターン	-0.89%
最大月次リターン	2.68%
最小月次リターン	-3.20%
年初来リターン	3.95%
設定来リターン	5.74%
平均リターン(月次)	0.03%
年率平均リターン	0.40%

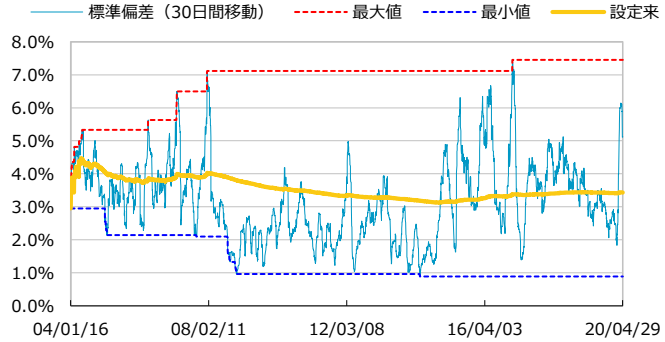
リスク	
標準偏差	3.50%
下方リスク	2.46%
最大ドローダウン	-20.79%

パフォーマンス	
シャープ・レシオ	0.07
最大ドローダウン/年率平均リターン	51.80
勝率	52.3%

分配金込み解約価額の推移



分配金込み解約価額における標準偏差の推移



分配金込み解約価額のパフォーマンス(騰落率)

	ファンド	ベンチマーク
3ヵ月	2.36%	-0.03%
6ヵ月	3.41%	-0.06%
1年	3.22%	-0.12%
3年	3.55%	-0.25%
設定来	5.74%	2.48%

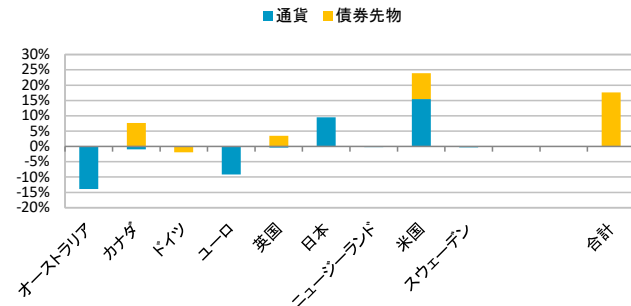
分配金実績(税引前)

2020/2/7	0円
2019/2/7	0円
2018/2/7	0円
2017/2/7	0円
2016/2/8	0円
設定来合計	1,866円

資産構成(マザーファンド)

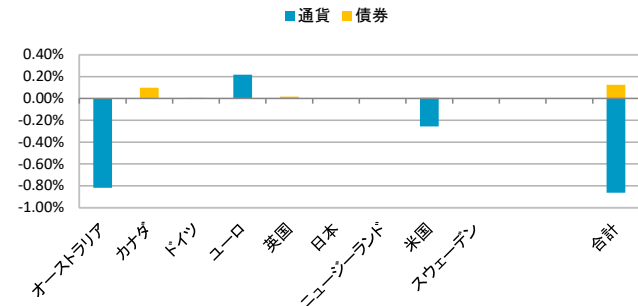
資産	比率
証拠金	7.8%
コール・その他	92.2%
日本国債	0.0%
海外債券	0.0%
合計	100.0%

エクスポージャー



マザーファンドの通貨および債券先物取引のエクスポージャーを、マザーファンド純資産総額に対する比率で表しています。

損益寄与度



マザーファンドの通貨および債券からの損益寄与度を、マザーファンド純資産総額に対する比率で表しています。一切のコストが考慮されていないことから、基準価額の推移と完全に一致するものではありません。また、当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当ファンド(マザーファンドを含みます)は、主に債券および債券先物取引にかかる権利を実質的な投資対象としますので、債券および債券先物取引にかかる権利の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合があるほか、為替予約取引なども積極的に活用しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様へ当ファンドへの理解を高めていただくために作成した資料です。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金庫機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

ウイルスによる経済的打撃の全体像やウイルスの病理はまだ明らかになっていませんが、世界中で多くの国が既に経済活動の再開段階へ移行しつつあります。社会活動再開の時期および手法は国によって異なり、そうした違いが、長期的な経済への影響において重大な決定要因になる可能性があります。欧州諸国は、中国以外で感染が拡大した最初の国に入るため、必然的に再開の先発隊になるべく準備を進めています。欧州の特色をよく示す専門家の意見を基に社会経済を運営する手法を用いて、人々が自宅から移動できる距離の制限を非常に細かい段階に分けて緩めることから始めると考えられます。感染の各種データに関する所定の目標達成が維持されなかったときは、緩和措置は再び引き締められることとなります。対照的に米国の制限は、極めて部分的にかつ政治色が強い形で解除されつつあります。トランプ大統領は、医療の観点から見た最善の成果を生むことよりもむしろ予定されている大統領選挙を意識して加速的な再開スケジュールを検討しています。感染率が引き続き上昇しているにもかかわらず、レストランや店舗の営業再開を既に選択した州もいくつかあります。こうしたリスクの高い方策が奏功し米国企業の倒産件数が他より少なくなるか、あるいは年内に第2波の感染を引き起こすことになるかは不透明です。日本など感染がピークに達するのが相対的に遅い国は、それら2つの再開パターンの結果を見極める猶予を得て、最も機能する手法を選ぶことができるかもしれません。

◎運用概況

4月、組み入れマザーファンドはマイナスのパフォーマンスとなりました。当GDAAモデルが引き続き保守的なリスク・エクスポージャーを推奨しており、豪ドルのショートポジションについては低調なコモディティ価格を基に概ね水準を維持しました。オーストラリアによるコロナウイルス感染拡大防止の取り組みが奏功するなか豪ドルが値上がりしたため、同ポジションはマイナスに寄与しました。その他の通貨については、投資家が各国における財政・金融政策の変更による影響の把握に苦労するなか、為替レートは概ね横ばいとなりました。債券ポートフォリオは、リスク回避シグナルに基づくロングポジションが小幅プラスのリターンに寄与しましたが、前月と比較するとエクスポージャーを縮小させました。低い債券利回りに織り込まれている保守的な見通しとは対照的に、世界の株式市場および社債市場では予想に反してパンデミック(ウイルスの世界的流行)を巡り楽観的な見方が広がり、米国株主導で世界各国・地域の相場は上昇しました。投資家の関心は企業活動の再開に向けた動きによるプラス効果の見通しに集まった模様で、ウイルス抑制を目的とする緊急措置による企業の利益や雇用への打撃が映し出されたデータに投資家は反応しませんでした。そうした打撃の規模に関し高い不確実性が漂うものの、企業が活動を再開できるようになれば生活は正常に戻るといった想定を市場は受け入れている様子です。

◎今後の見通し

ウイルスの封じ込め策による明らかな経済への打撃を踏まえると、当ファンドは、多くの投資家同様、足元の株式市場の動きについていくらか困惑していると言わざるを得ません。債券および為替市場においては、すべての国が多かれ少なかれ同じ状況に置かれており、先進諸国による財政拡大・金融緩和策によってボラティリティの低下に繋がっています。こうしたボラティリティの低下が影響して、当モデルは前月の極端な動きの影響が低下するにしがたい、強気なポジションを再構築できるようになると考えています。

■当ファンド(マザーファンドを含みます)は、主に債券および債券先物取引にかかる権利を実質的な投資対象としますので、債券および債券先物取引にかかる権利の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合があるほか、為替予約取引なども積極的に活用しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。